

報道された広大

十一月

#「ホームステーションアイ」―レストハウスの診断
―工学部教授 嶋津孝之(広島ホームテレビ、12・18
1830~1900)

一月

#「どこい、神田の日めぐりテレビ」―震災1年
広島市の対策―工学部教授 嶋津孝之(テレビ新広島
1・17 950~1050)

#よみがえる「5時46分」―震災は何を教えてください
のか(響鐘)再び―工学部教授 嶋津孝之(読売、1・
18)

#住重、常電導SRリング、広島大から受注(日経産
業、1・19)

#ひろしまの史跡―西ガガラ遺跡(中国、1・20)

#街かど考―震災1年、防災体制は大丈夫?(呉)
―工学部教授 嶋津孝之(中国、1・23)

#注目集める「バナバ茶」飲むだけで血糖値低下―広
島大医学部総合薬学科の山崎和男教授(読売、1・
27)

#第8回広島大学国際伝大会(中国、1・28)

二月

#「子どものプリズム」マルチメディアで広がる世界
―広島大付属中の室長大応先生(理科)(毎日、2・
4)

#「時のひと」広島大学留学経験者がインドネシアの
日本研究所初代所長―クンチャロ・ジャクテイさん
(読売、2・6)

#28教授が定年退官―チェルノ調査の佐藤氏ら(中国
2・6)

#個性的な都市景観づくりへ設計者が決まる―広大跡
地の公園など6事業(毎日、2・6)

#パーキンソン病の治療薬「アルツハイマー病に効果」
―広島大 中村重信教授(毎日、2・6)

#カラーゲン合成 昆虫細胞に遺伝子組み込み培養人
工皮膚などへ利用探る―広島大学の吉里勝利教授ら
が共同研究(日経産業、2・6)

#全日本アンサンブルコンテスト中国大会―広島大学
吹奏楽団選出(朝日、2・6)

#学園都市づくり提案数々―広大生とJC 熱意込め意
見交換(中国、2・7)

#今春「教育実践総合センター」開設―広大学校教育
学部自殺、不登校など研究―「いじめ」の背後探る
(毎日、2・8)

#広大医学部長に吉永文隆教授(朝日、中国、2・9)

#いじめ追放に知恵絞る―広島大学学校教育学部が
「教育実践総合センター」設置(朝日、2・10)

#TALKトーク―被爆者データの基礎整理に40年小
久保公子さん、すべての死者名発掘し後世に(中国
2・12)

#「もし、ならば」仮定し授業 広大付小の岡崎教諭―
歴史の「タブー」あえて挑戦(中国、2・14)

#トルコ再訪―難波平人 憧れのキャパドキア(中国
2・14)

#トルコ再訪―難波平人 複合する文化(中国、2・
15)

#被爆者手記 昨年は187点―宇吹広大助教授調べ 高齢
化進み継承切実(中国、2・17)

#付属学校部長に中西稔教授(朝日、中国、2・17)

#新刊選―「私の万時簿」三好信浩著(広島大学教育
学部教授)(中国、2・18)

#ロボット・ビデオフェスティバル―広島大学工学部
の金子真教授が「人工能動触角」をテーマに講演
(日経産業、2・20)

#広島大付属高校に副賞 学生科学賞―三菱電機(読売
2・20)

#HIV訴訟原告団と座り込んだ―非人間的な行政に

憤り 広島大学三年本田洋子さん(朝日、毎日、2・
20)

#「でるた」須磨寺付近 尾西康充(広島大学教育学部助
手)(中国、2・20)

#ひと立ち話 松を伐採し山火事防止 広島大総合科学
部中越信和助教授(中国、2・20)

#レストハウスの取り壊しは暴挙―「平和公園シンポ」
で広島大の植木助教授(中国、2・20)

#境界集落 地域社会はいま―広島大 作木村の住民意識
調査 鯉坂学広島大教授(朝日、2・21)

#広島大など国立4校あす2次試験(山陽、2・24)

#学校へ―平林一栄 広島大名誉教授―間違いながらも
じっくり学習を(中国、2・25)

#春目指し八五二七人挑戦、国立大2次試験スター
ト 広島大など4校で(山陽、2・26)

#防災―「神戸」からの教訓へ―工学部教授 嶋津孝
之(中国、2・26)

#広大では29人挑戦、国立大2次試験(読売、2・27)

#広島大付属東雲小・中校、東広島市に移転動きかけ
―市会で市長表明 教育実習の不便解消(中国、2・
27)

#探究心育成 教育に必要―広島大武村重和教授(中国
(夕)、2・27)

#キャンパスは憩いの水辺公園―広島大、県と共同整
備、97年度着手 市民との交流促進(中国、3・1)

三月

編集後記

◆広報委員会の仕事は、一年を通してこの時期
が、おそろしくいちばん忙しい。わずか二か月ほ
どの間に六、七、八号と三冊の「フォーラム」
を準備しなければならぬからだ。
この編集後記を書いている間にも、すでに次
号の編集は進んでいる。そして、次号新入生特
集号で私たち第二十七期広報委員会の仕事を終
了する。今号は卒業生特集。別の特集の第二
弾だ。

◆二十年ほど前の卒業式の写真を取り出してみ
た。はじめて買ったスーツ姿で友人たちと並ん
でいる。その日以来会う機会のない友人や、大
学院へ進んでもとに学んだ友人。みんなフサフ
サの髪とスベスベの頬をしていて若い。
卒業は一つの通過儀礼でしかないが、その意
味は軽くない。後から振り返れば分かってくる。
友人と別れ、生活のサイクルが変わるだけなの
に、世界がほとんど別の様相を見せてくる。そ
れまで経験したことのない辛さや悲しさも混じっ
ている。人生の多くの時間はその世界で流れて
いく。

◆「おめでとう」を言う前に、つい教師の老妻
心が出てしまった。希望に胸をふくらませてい
る若い人々には、無縁のパターナリズムだ。
ただどんな道に進んでも、通過儀礼はまだまだ
続く。それぞれのステップを乗り越え、すばら
しい人生を切り開いてほしい、と切に思う。

◆本学の同窓会も連合組織となつて、卒業生と
のコミュニケーションをこれまで以上に深める
ことができるだろう。そうするなかで、後輩た
ちと交わり、彼らを導いていってほしい。本学
が懐かしくなつたら、遠慮せずに訪ねてほしい。
二十世紀も残すところ五年。来世紀初頭には、
本学のキャンパスは移転の跡をすっかり隠して、
見違えるばかりになつていくにちがいない。そ
のときの再会を期しつつ、卒業生の門出に乾杯
したい。

では、次号までしばしサヨナラ。
(第27期広報委員会委員長 越智 貢)

広大フォーラム第27期7号

編集発行 広島大学広報委員会
(庶務部企画調査課)
住 所 広島市中区東千田町1丁目1番89号
電 話 (082)241-1221 内線3539
F A X (082)242-1561
E-mail koho@ue.ipc.hiroshima-u.ac.jp
印 刷 株式会社キョープリント
広報委員 越智 貢 (委員長・文学部)
早川 式彦 (副委員長(原爆放射能医学研究所))
安藤 正昭 (副委員長(総合科学部))
森 敏昭 (教育学部)
若元 澄男 (学校教育学部)
森 邊 成一 (法学部)
藤原 賢哉 (経済学部)
竹野 節夫 (理学部)
村上 恒二 (医学部)
新谷 英章 (歯学部)
松尾 彰 (工学部)
山本 禎紀 (生物生産学部)
成 定 薫 (大学院国際協力研究科)
吉田 二美恵 (附属図書館)
難波 紘二 (総合科学部)
中田 高 (文学部)
西村 浩二 (総合情報処理センター)